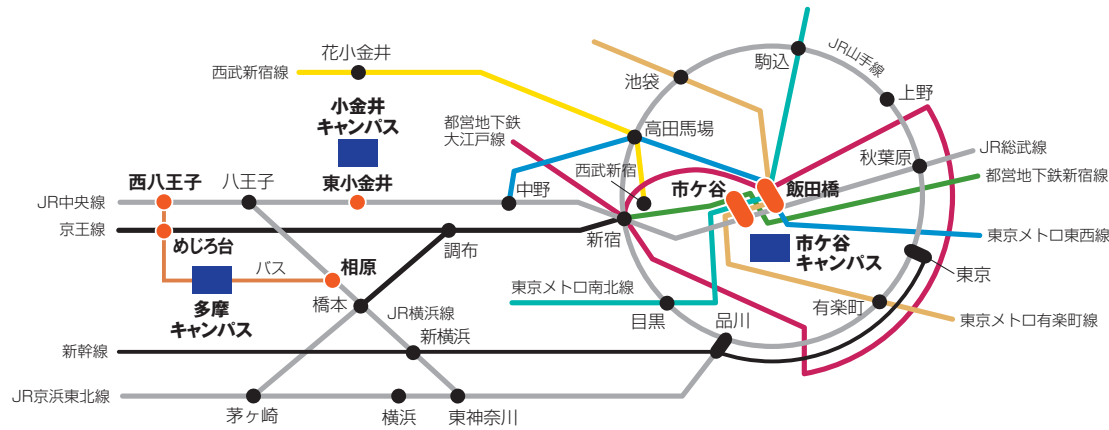




法政大学 就業力育成支援事業の詳しい情報は ▶▶▶ <http://3step.hosei.ac.jp>

Access to Each Campus

法政大学は3つのキャンパスからなっています。それぞれのキャンパスへのアクセスは以下の通りです。



市ヶ谷キャンパス

- 法学部 ● 文学部 ● 経営学部 ● 国際文化学部
- 人間環境学部 ● キャリアデザイン学部
- デザイン工学部 ● GIS(グローバル教養学部)

多摩キャンパス

- 経済学部 ● 社会学部 ● 現代福祉学部
- スポーツ健康学部

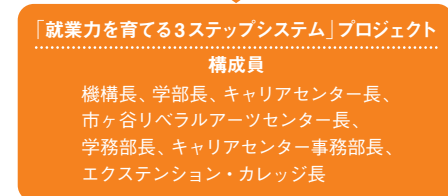
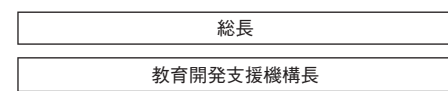
小金井キャンパス

- 理工学部 ● 生命科学部 ● 情報科学部

法政大学

● お問い合わせ
 「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト
 〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1
 TEL 03-3264-9520
<http://www.hosei.ac.jp/>

● 就業力育成支援事業組織図



- ・ 法学部
- ・ 文学部
- ・ 経営学部
- ・ 国際文化学部
- ・ 人間環境学部
- ・ キャリアデザイン学部
- ・ グローバル教養学部

学ぶ力を
 生きる力へ

文部科学省

「大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)」に
 本学の「就業力を育てる3ステップシステム」
 が採択されました。

法政大学

<http://www.hosei.ac.jp/>

2011年、就業力が

特別対談

法政大学が考える就業力とは

藤村博之教授

株式会社 日本共同システム取締役社長
経営学部 経営学科 1970年3月卒業

佐々木郁夫さん

法政大学キャリアセンター長
「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクトリーダー

学生と企業の意識との
ギャップを埋めたい。

藤村博之教授



**大学教育は実はいい線をいっている
と思っています** (藤村)

藤村 学生の就業力を育てるという今回の取り組みは、法政大学の理念である自立型人材の育成を推し進める具体策のひとつと考えています。これまで学生にも、企業にも、大学で学んだ内容と仕事で求められる能力はイコールではないという思い込みがありました。しかし、私の専門である人事労務の研究から見ても、また、20年以上の教員経験から言っても、大学で学ぶことの8割は社会が求める能力の養成につながっていると考えています。これを整理したものが「文書作成力」「情報収集・分析・発信力」「状況判断・行動力」という3つの就業力です。

**何のために学ぶのか、
その意識を持つことで
さらに効果が上がるでしょう** (佐々木)

佐々木 確かに大学教育は、社会で生きるための力を育てる大切な役割を担っていると思います。物事を論理的に考える習慣や問題を発見する力、チームワーク力などを身につける機会が実はたくさんある。付け加えるなら、その機会をしっかりと生かすために、この知識は何のために必要なのか、この講義はこういう意義があって学んだという意味づけを常に行うことで、学生の意識は、さらに高まると思います。

藤村 なぜいまこの知識を学ぶのか、それは社会のどこで生きてくるのかを、学生はもちろん、我々教員も意識していく必要があると考えています。例えば、身につく力をシラバスに明記することなどは、そのための仕組みの一例です。

未来を拓く鍵となる。

**大学時代、積極的に物事に
取り組んだ人は
例外なく社会でも伸びます** (佐々木)



佐々木 入社3年目くらいの新人を見ていて大きな差を感じるの、人生とか仕事に対する「意欲」です。思い通りにならないことがあっても、それでも物事にポジティブに取り組む姿勢を持っている人は必ず伸びます。それは、学生時代にどれだけ問題と向き合い、乗り越えてきたかに左右されるのではないのでしょうか。

藤村 そのためには、まず行動することが大事ですね。講義やゼミ、クラブ・サークルの活動、アルバイトなど、自分から積極的に人と関わらななかで、自分のこだわりや興味を見つけ、自分を確立して行ってほしい。結局はそれが意欲にもつながるのだと思います。

**大学と企業の対話を活発にすることが
大事ではないでしょうか** (藤村)

藤村 おそらく大事なのは大学側がどういう方針で教育しているかを企業に伝えることでしょう。同時に、企業側もどのような人材を求めているか、その対話を活発にしたいと考えています。幸い、法政大学にはさまざまな分野で活躍する卒業生がいます。その力をぜひお借りして、学生が自分の興味がある分野の先輩から、直接仕事の苦労ややりがいを聞くことができれば、学生の社会を見る目、仕事に対する視点が変わるだろうと期待しています。

佐々木 いまは大企業の役員を務めている人も、入社したときは中小企業だったという例が少なくありません。つまり、自分たちの力で会社を大きくした。そういう人の話を聞くことは、小さくても可能性にあふれた産業に目を向けるきっかけになるかもしれません。世界のなかで、日本が変わらぬ存在価値を持つためには企業と大学、さらには高校が、ともに新しい社会をつくるという意識を持つ必要があります。その一翼を担うと考えれば、なかなか挑戦しがたいのあるおもしろい時代に生きているとも言えるのではないのでしょうか。

法政大学の取り組みに
期待しています。

佐々木郁夫さん



法政大学は日々の学びをベースに、
これまでに取り組んできたキャリア教育を
さらに充実させます

学生の「3つの就業力」を伸ばします。

3つの就業力とは

法政大学は就業力を「**文書作成力**」「**情報収集・分析・発信力**」「**状況判断・行動力**」の3点からとらえています。
この3つの能力を向上させることが、
取り組みの大きな目的です。

インターネットで簡単に
手に入る情報でなく、本当に
価値のある情報はどこ
にあるか。必要な情報を、
その使い道なども理解し
た上で集める力はビジネス
の現場に不可欠です。情
報を集め、また、手に入れ
た情報を分析し、的確に伝
達する力を育てます。



メモをとるといふ基本から、会議の議事録や
顧客を訪問した後の報告書、あるいは企画の
提案まで、ビジネス社会では頻りに文書を作
成する場面が訪れます。ビジネスの現場で求
められる、簡潔に、わかりやすく、効率的に
文書を作成する力を育てます。

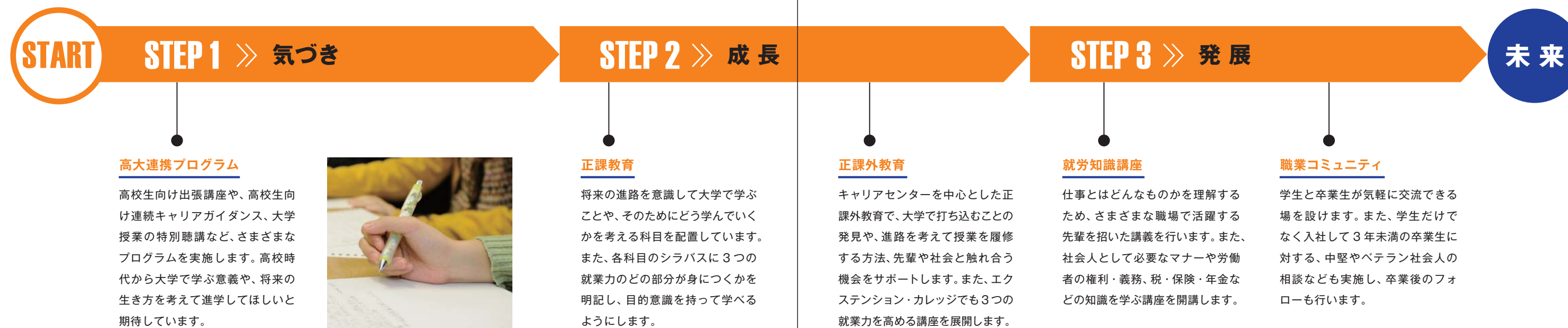
指示された業務を確実に
こなすことはもちろん、複
数の業務が重なった場合、
優先順位をつけて行動し
たり、周囲の助けを借りる
など、状況に応じて何をす
べきか判断する力が求め
られます。また、自分の意
思で決断し、遂行できる能
力を育てます。

この3つの力は、これまで法政大学が実践してきた学
部教育においても十分に養うことができるものです。
まず、それを意識することで学生はこれまで以上に
目的意識を持って学ぶことができるでしょう。企業が
求めている、コミュニケーション力、主体性、粘り強さ、
挫折を乗り越えた経験などが、法政大学の取り組みの
なかで確かに育つ。そのことを産業界にもアピールし、
大学が育てる人材と企業が求める人材がマッチして
いることを理解してもらおうと考えています。



就業力を育てる3ステップシステム

「気づき」「成長」「発展」の3ステップで成長をフォローします。



高大連携プログラム

高校生向け出張講座や、高校生向
け連続キャリアガイダンス、大学
授業の特別聴講など、さまざまな
プログラムを実施します。高校時
代から大学で学ぶ意義や、将来の
生き方を考えて進学してほしいと
期待しています。



STEP 2 >> 成長

正課教育

将来の進路を意識して大学で学ぶ
ことや、そのためにどう学んでい
かを考える科目を配置しています。
また、各科目のシラバスに3つの
就業力のどの部分が身につくかを
明記し、目的意識を持って学べる
ようにします。

STEP 3 >> 発展

正課外教育

キャリアセンターを中心とした正
課外教育で、大学で打ち込むこと
の発見や、進路を考えて授業を履修
する方法、先輩や社会と触れ合う
機会をサポートします。また、エ
クステンション・カレッジでも3つ
の就業力を高める講座を展開します。

就労知識講座

仕事とはどんなものかを理解する
ため、さまざまな職場で活躍する
先輩を招いた講義を行います。また、
社会人として必要なマナーや労働
者の権利・義務、税・保険・年金な
どの知識を学ぶ講座を開講します。

職業コミュニティ

学生と卒業生が気軽に交流できる
場を設けます。また、学生だけで
なく入社して3年未満の卒業生に
対する、中堅やベテラン社会人の
相談なども実施し、卒業後のフォ
ローも行います。

考え、実践するカリキュラムを充実させます。

これまでも法政大学では「キャリアデザイン入門」などの科目を通
して、大学で学ぶことの意義を考え、社会で必要とされる能力を育
てることに取り組んできました。これに加え、新たに「就業基礎力
養成」などの科目を設けて、文書作成力、情報収集・分析・発信力、
状況判断・行動力など、社会で求められる3つの能力の向上をめざ
します。また、「学部教育と就業力養成」をテーマに、各学部の授業
やゼミの学びから得た力と社会とのつながりを理解する科目を充実
させます。「就業応用力養成」「キャリア・マネジメント」など、卒業生
をゲストスピーカーとして招く講義を全学に向けて公開することも、
カリキュラムの充実のひとつ。同時に、正課外教育でも新規プロ
グラムを拡充し、正課教育との連携による相乗効果を狙います。

科目・カリキュラム

●基礎科目
キャリアデザイン入門
キャリアデザイン演習
就業基礎力養成Ⅰ・Ⅱ

●専門科目
キャリア・マネジメントⅠ・Ⅱ
就業応用力養成Ⅰ・Ⅱ
文学部生のキャリア形成
現代のコモンセンス

その他



社会と接するための「職業コミュニティ」をつくります。

社会人として活躍している卒業生と、在学生とが身近に交流でき
る「職業コミュニティ」をつくります。学生にとって、社会人の体
験談を聞くことは、自分の将来像を具体的にイメージすること
につながります。それが同じ大学、同じ学部の先輩ならば、なお自分
に置き換えて考えやすいはず。また、大学時代に学んだことが、
社会人としての日々はどう役立っているかを確かめることで、学
習やさまざまな活動に自信と自覚を持って取り組むことができる
でしょう。在学生だけでなく入社3年未満の卒業生と中堅・ベテ
ラン社会人との交流を提供することや、キャリアセンターで卒業
生のキャリア相談を行うことも、一人ひとりのキャリアを大切に
するという意味で、大学の役割だと考えています。



From Graduate

夢を実現し、イキイキと働いている先輩に大学で学んだことが
社会でどのように役立っているか語っていただきました。



夢になれるものや、尊敬できる友人との出会い。
そこから多くのことを学んだ大学生活でした。

田山 菜穂さん

人間環境学部 人間環境学科 2009年3月卒業
大手食品・飲料メーカー勤務

学生時代に身についた力

- ★講義
 - ・授業内容のポイントをつかんでメモする力
 - ・レポートを簡潔に論理的に書く力
- ★ゼミ
 - ・自分からテーマを探す問題発見力
 - ・発表をつくりあげる構成力
 - ・卒業論文を書く上での資料収集&文章力
- ★サークル
 - ・後輩へ指導するときのコミュニケーション力
 - ・練習場所の手配、スケジュールなどの調整力
 - ・演技を考える表現力
- ★エクステンション・カレッジ
 - ・秘書検定1級取得

私は現在、食品・飲料メーカーの役員秘書を務めています。入社直後、秘書部に配属されたときは、戸惑いもありましたが、経営トップの方々や身近に接する貴重な機会だと考え、日々の業務に向かっていきます。大学時代は自由な時間がたくさんあります。だからこそ、何かひとつでも真剣に打ち込めるものを見つけてほしいと思います。私の学生時代はジャズダンスサークルの活動が中心でした。自主公演や学園祭、コンテストへの出場をめざし、仲間とより良い演技をめざした経験は、相手の立場で考え、行動することの大切さを教えてくれました。また、ゼミの発表や議論は、論理的な思考力と相手に理解してもらおうための表現力を磨くことにつながっていたと思います。学びや活動に夢中で取り組むなかで尊敬する友人に出会い、自分という人間に気づくこともできる。それが大学時代の意味だったと、あらためて感じています。